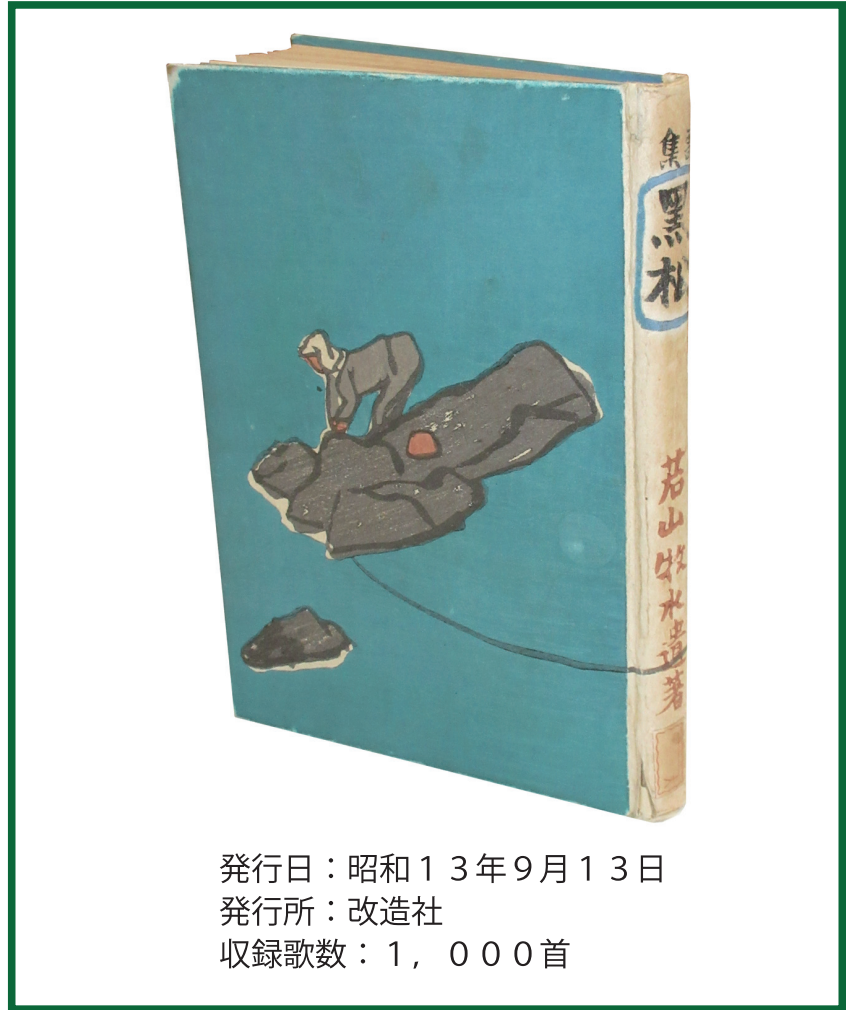


収 蔵 資 料 か ら

其の101 第15 歌集『黒松』



発行日：昭和13年9月13日
発行所：改造社
収録歌数：1,000首

第15歌集『黒松』は、大正12年から昭和3年の歌1,000首が収録されています。

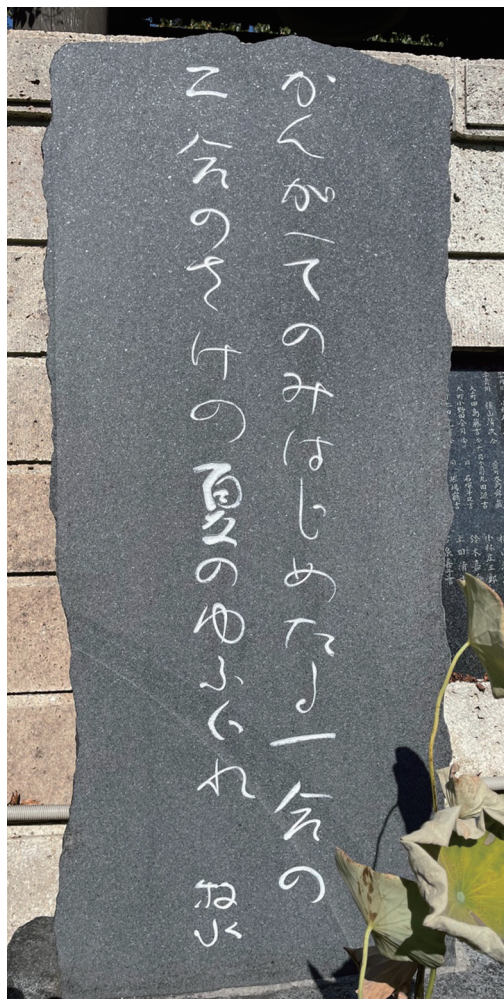
牧水は自宅建築や新雑誌創刊の費用を捻出するため、大正14年頃から全国で揮毫頒布会を行います。過密日程の中、掛軸や短冊を書き、講演会や歌会などを行いました。また、人と逢う機会が増え、自ずと酒の量も増えました。心身共に疲れ果てる難行苦行の旅を続けた牧水は、次第に健康を害していき、昭和3年9月17日、43歳で逝去します。

生前、第14歌集『山桜の歌』以降の作を集めた歌集出版を計画し、歌集名も『黒松』と決め、ある程度原稿も纏められていましたが、それを果たさずに終わりました。牧水没後、喜志子と大悟法利雄とで纏め、『若山牧水全集』（改造社版）に収録した後、没後10年を記念して新しく単行本として出版されました。

（参照『若山牧水全集』）

牧水歌碑めぐり

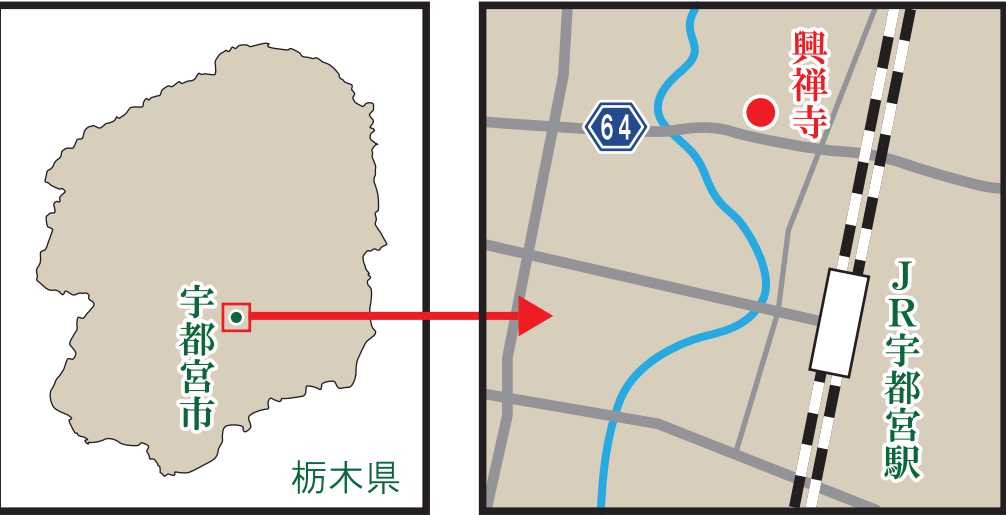
其の102 興禅寺（栃木県）



かんがへてのみはじめた一合の
二合のさけの夏のゆふぐれ 牧水

明治45年5月、太田喜志子と結婚した牧水は、新宿二丁目の森本酒店の二階で新婚生活を始めます。その頃に詠んだ歌で、「白玉の～」と並び酒の秀歌として広く愛誦されています。

歌碑を建てた石川靖宗住職の父英宗氏は「創作」の同人で、牧水から歌の指導を受けていました。その関係で牧水からこの歌の揮毫を受けてその軸を保存していたので、靖宗氏がそれを父の記念にと参道沿いに建てました。現在は鐘楼前に移設されています。



（参照『若山牧水全国歌碑集』）

文学館だより



令和 7 年 6 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982－68－9511
文 貴 日 高 第110号

＝若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year＝

若山牧水生誕140年記念 ／ 若山牧水記念文学館開館20年記念

郷土の歌手小田加奈子が 郷土の歌人若山牧水を歌う

小田加奈子コンサート

会場が温かく包まれて(*▽*)

若山牧水記念文学館初の試み、「文学館でコンサート房」を開催いたしました。今年が牧水生誕140年であること、更には文学館開館20年であることから、ここ牧水のふるさと坪谷で開催したいという強い思いをもって準備を進めてきました。大ホールがあるわけでもありません。ポスター、チケットもすべて手作り。我々の思いを受け取り引き受けてくださった小田加奈子さん、すてきなコンサートをありがとうございました。



文学館がコンサート会場に \◎◎◎/



80名を超えるお客さまが聞き入りました（スタッフ含む）



ピアノ伴奏 河野浩子さん（左）

5月25日（日）13：00 コンサート開演

開会の後、牧水を知ってもらおうと牧水クイズに挑戦。

- 【第1問】 若山牧水は明治18年8月24日、牧水生家で生まれました。生まれた場所はどこでしょう？
A 居間 B 縁側
- 【第2問】 牧水は生まれた日のことを歌に残しています。空欄「 」に入る言葉は何でしょう？
おもいやる かのうずあおき かいのおくに われのうまれし「 」のさびしさ
A 里（さと） B 朝（あさ）
- 【第3問】 牧水の母の名前は何でしょう？
A マキ B 喜志子
- 【第4問】 牧水は「酒のうた」をたくさん詠んでいます。全部で何首詠んでいるでしょう？
A 約150首 B 約350首 C 約550首

【第1問】B 【第2問】B 【第3問】A 【第4問】B
会場の全問正解者は15名でした。

マイクが小田さんに渡し、いよいよ開演。

しらどり
「白鳥の歌」から幕が開きました。しらどり
みなさんは古閑裕而（こせきゆうじ）作曲の「白鳥の歌」をご存じでしょうか。
1 番 白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ
2 番 幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく
3 番 いざ行かむ行きてまだ見ぬ山を見むこの寂しさに君は耐ふるや
に曲を付け、昭和22年に発売されています。
続いて、当時の牧水顕彰会が牧水を偲んで作ったと言われている「坪谷慕情」。途中小田さんのオリジナル曲を挟み、7曲目に、さだまさし作詞作曲の「あこがれ」。牧水の「けふもまた心の鉦をうち鳴しうち鳴しつづあくがれて行く」に感銘を受けたさださんが詩を書き、曲を付けた1曲です。この「あこがれ」については、「文学館だより 令和7年2月号 第106号」で紹介いたしました。よろしかったらご覧ください。
そしてアンコール。「白鳥の歌」をもう一度。そして、「ふるさと」の2曲を会場全員で合唱。
牧水先生のこと、ふるさと坪谷のこと、「白鳥の歌」との出会いを大切に話してくださった小田さん。艶ある小田さんの歌声に会場が温かく包まれて、うっとりしたひとときでした。
伴奏譜のないところご苦労をおかけした河野浩子さん、ありがとうございました。



この日のために
で熱唱
したドレス

第14回若山牧水顕彰全国大会－しまなみ・ゆめしま大会－ 開催



昨年のプレ大会に続き、若山牧水顕彰全国大会が愛媛県今治市で開催された。私は昨年参加させてもらった。「文学館だより 令和6年6月号 第98号」を読み返してもらえるとありがたい。

第14回若山牧水顕彰全国大会－しまなみ・ゆめしま大会－

- 1 開会
- 2 シンポジウム1部（後述）
- 3 シンポジウム2部
「短詩計の過去と未来－牧水・山頭火・放哉から考える－」
- 司会 土岐友浩 パネリスト 大森静佳、佐藤文香、山口遼也
岩城島（いわじじま）クルージング

ここでは、シンポジウム1部について報告する。

牧水第六歌集『みなかみ』をとことん論じる
－ 定型と韻律をめぐって－

司 会 伊藤一彦（歌人、若山牧水記念文学館館長）
パネリスト 大森静佳（歌人） 土岐友浩（歌人、精神科医）

【大森氏】「牧水は“あてのなき”を求めた歌人。自然と自分の境界があいまいで、“われ”に空洞（すきま）がある。しかし、苦境の中で詠まれた『みなかみ』の歌は、その苦しさゆえ、心のゆとりがなくなっている。牧水らしくない歌集だが、牧水全体として見ると、牧水の試作が感じられる。」
【土岐氏】「短歌は“対話”であり、牧水は自然と対話をした歌人。自然を歌いながら自分の心を歌ってきた。『みなかみ』の破調の歌に多く見られるリフレインも対話を示したものであり、場面そのものが定型では書けなかった故の破調。」
【伊藤氏】「長男なのに家を継がない自分を忸怩（じくじ）たる思いで見ている。家と自我の問題にぶつかり、身を小さくしている。『みなかみ』の歌はその苦悶を歌にしている。韻律の面から見ると、リフレインをうまく使ってリズムを作っている。」

以上、出張報告より転記。
詳細は全国牧水顕彰会会報の報告を待つこととしたい。
若山牧水しまなみ顕彰会のみなさま、2年に及ぶ全国大会、お疲れさまでした。

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

家のうちれのうへの紫陽花のうすら青みのつる真昼日

いえのうち つくえのうえの あじさいの うすらあおみの つるまひるび

大正 4 年の夏、神奈川県の大浦半島・北下浦海岸（横須賀市）での詠草。喜志子夫人の転地療養のため北下浦に転居している時の歌。牧水 30 歳。第八歌集『砂丘』に収められ、「夏日哀愁」の詞書のもと、7首が詠まれている。

夏の朝ややに更けゆきわがこころ離ればなれに疲れたるかな
夏草の花のくれなるなにとなくうとみながらに挿しにけるかな
うす藍のいまは褪（あ）せなむあぢきみの花をまたなくおもふ夕暮
あぢきみやこよひはなにか淋しきに立ち出でて雨をあふぐ夜の庭
わだつみの荒磯（ありそ）の貝をとり来り殻砕きつつさびし昼空
潮ぐもりこの貝あまり新しく磯くさくして食べがたきかな

当時、喜志子夫人が詠んだ歌には次の歌がある。

梅雨どきの雨のたえまの夜（よる）ふけて風吹く中に遠蛙きく

初めてのんびり、ゆっくりした生活が送れると思っていたものの、これまでの疲れが出たもののなか仕事らしい仕事が手につかなかったようである。
牧水先生、少しは気分一新できたのでしょうか。

第15 回青の國若山牧水短歌大会

今月末が応募締切です

応募締切

6月30日（月）

※郵送は当日消印有効

【募集部門】

＜一般の部＞

自由題・題詠「上」
※それぞれ一人1首応募できます。
（いずれか1首でもかまいません。）
※題詠は必ず「上」を入れてください。

＜小・中・高校生の部＞

県内の児童生徒が一人1首応募できます。

【応募方法】※専用の応募用紙があります。

＜葉書・封書で郵送する場合＞

作品（自由題、題詠の別を明記）、住所、氏名（ふりがな）、電話番号を記入してください。※当日消印有効

＜メールの場合＞

郵送と同じ内容を次のアドレスへ送信してください。
aonokuni.tanka@gmail.com

※一般の部は「自由題、題詠」どちらの作品かを必ず書いてください
※小・中・高校生の部は学校でまとめ、できるだけメールで応募してください。
たくさんの応募をお待ちしています。

若山牧水記念文学館

〒888-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地



＜ホームページはこちら＞

■利用案内■
【開館時間】9：00～17：00（入館は16：30まで）
【休 館 日】月曜日（祝日は除く） 年末年始（12月29日～1月3日）
【入 館 料】小・中学生／100円 高校生以上／310円（20名以上の団体は2割引）
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp